

## 第2回推進地域連携協議会の概要

1 日 時 令和2年2月20日（木） 9：40～12：10

2 場 所 旭川市立朝日小学校 図書室

3 活動報告

### 【旭川市立朝日小学校】

- ・キーワードは、子供の思考が「つながる」こと、学びの「質を高める」ことの2点。
- ・子供主体の学習にするためには、教師が子供の思考の流れやつまづきを予測し、適切な学習支援をしたり、学習環境を整備したりするなど、教師が多くの「引き出し」をもつことが大切である。
- ・「引き出し」から適切な手立てや、働き掛け等を選択し、組み合わせて指導することで、子供の思考は途切れずに、学びの自覚化を図ることができる。
- ・単元デザインとは、単に1時間1時間の授業をつなげることではない。教師は、子供の思考の隙間を見逃さず、隙間が広がらないようにするため、この時間は何が出来るようになったか、思考がつながっているかを確認しながら単元を構成していくことである。単元の途中で、単元デザインを部分修正することも必要になる。
- ・今年度の研究で見えてきた課題は、指導と評価をつなげていくことである。今日の授業が明日の授業につながるように、授業改善を積み重ねることを大切にしながら、今後の調査研究を深める必要がある。

### 【帯広市立柏小学校】

- ・見通しをもたせるために、単元の学習計画を提示することで、学習に対する安心感へとつなげることができた。
- ・児童と共に学習計画を考え、単元をつくることで、ゴールが明確になり学習意欲が増した。
- ・目的や意図をもった対話の形態を工夫することで、対話に必要感が生まれ、重点を絞った話し合いができた。
- ・「教え込む」のではなく、児童が自ら気付くことが増えた。よく考える場面が多い授業が展開され、思考力を育てる学び方が身に付いた。

### 【小樽市立菁園中学校】

- ・「深い学び」の視点からカリキュラム・デザインを考えるときに、教科書の配列のままではなく、単元のゴール、単元を貫くめあてをより明確にするため、単元計画を変更する手立てが有効だった。
- ・パフォーマンスシートについては、学習改善に向かって自らの学習を調整しようとする姿勢を育成するために、生徒が自らの活動のプロセスを要約して表現することでメタ認知を促すことができた。
- ・どの教科でも、課題解決的な授業を基本にすることで、学習に必要感をもたせることができた。やらされ感のある授業から脱却するために、問いの提示を3択から始めるなど、できることから学校全体で取り組んだ。
- ・「授業では学び合いを大切にするが、テストでは公式さえ覚えていればよい。」としないために、授業との関連を重視したテスト問題を改善し工夫している。

#### 4 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業の実際と評価について

【北海道教育大学旭川校准教授・山中 謙司様】

- ・子供たちが、学びを自覚化することによって、子供自身のつまずきが明確になり、子供自身が学びを調整することができるようになる。
- ・本プロジェクトの研究は、形式的・表面的な取組ではなく、教師が思考スキル等を活用して子供の内面を育てることで、子供たちの主体性が育まれ、授業改善につながっている。
- ・子供たちの学びは、「わかったつもり」から「わかった」へとつながることで意欲が高まっていく。自分の考えと友達のことを比較し、何が、どのように違うのかについて考えを深めようとする態度を育成することで学びの自覚化が育まれる。
- ・学年がすすむほど、学習の理解度に個人差が出てくるので、各学年で、どのようなことを学んできたのかを踏まえ、子供にとっての必要感を大切に幅広い授業展開を考えていく必要がある。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価については、観点別評価を通じて見取ることができる部分と、個人内評価を通じて見取る部分があるので確認しておく必要がある。

#### 5 全体交流

○ABCの3つのグループに分かれ、2点について協議した。

##### ①成果につながった各地域・各学校での有効な手立てなど（各学校）

- ・単元をデザインするなかで、子供の様子を見ながら小変更をすることが必要になる。
- ・意図をもった発問が、学習の意欲を高める。
- ・見通しと振り返りで、粘り強さや自己調整力が育つ。

##### ②学校の取組を支える支援の工夫など（各委員会）

- ・旭川市では、年3回行っている授業力向上研修で、各学校の取組を紹介し、自校でできることから始め、日常的な取組になるように働きかけていく。

#### 6 まとめ

【学校教育局義務教育課義務教育グループ主任指導主事・木谷 研介様】

- ・単元レベルで、ゴールから逆算して授業をデザインしていくことや、子供目線の授業づくりなど、ALPS-Wの成果を普及するため、「教育課程編成の手引き」（授業づくりの考え方）のページに、5ページ分掲載する予定。